

MPG エコアクション レポート 2025 (2025年10月発行)

私たちのメビウスパッケージングの環境への取り組みを広く知っていただくため「**MPGエコアクションレポート2025**」を発行します。

本レポートでは、**当社の環境への取り組み**と**2024年度の成果**を以下の項目に分けて詳しくご紹介します。

- 1. GHG排出量の状況**
- 2. リサイクル材・バイオ材(植物由来)の使用状況**
- 3. 脱炭素社会の実現に向けての活動状況**
- 4. 環境パフォーマンスの外部への開示状況**
- 5. プラスチック排出に対する情報開示**

1. GHG※1排出量の状況

当社は製品の総重量で割ってCO₂相当量に換算し、2030年度までの目標を設定しております。

- ◆事業活動でのScope1・2 生産重量あたり 目標「50%削減」
- ◆サプライチェーンでのScope3 販売重量あたり 目標「30%削減」

それぞれの推移を《資料1》に示します

(2019年度比／2024年度までは実績、2025年度は見込、2030年は目標)

Scope1・2について、生産活動による省エネ投資や生産効率の改善等の電力使用量削減活動に取り組んでおります。

2024年度は、FIT非化石証書の調達で、約11,000[t-CO₂e]分の目標に沿った削減となっており、今後も計画に沿った調達を実施します。

2025年度以降も、生産活動に関わる省エネの深化に加え、自家消費の再生可能エネルギーの調達を継続します。茨城工場では、工場敷地内への太陽光パネル設置を完了しております。またオフサイトPPAなど、各種非化石電力の調達手段についても検討を進めます。その他東洋製罐グループで開発された高機能フィルムを用いた太陽光パネル※2の活用で社内設置可能エリアの拡大なども検討してまいります。

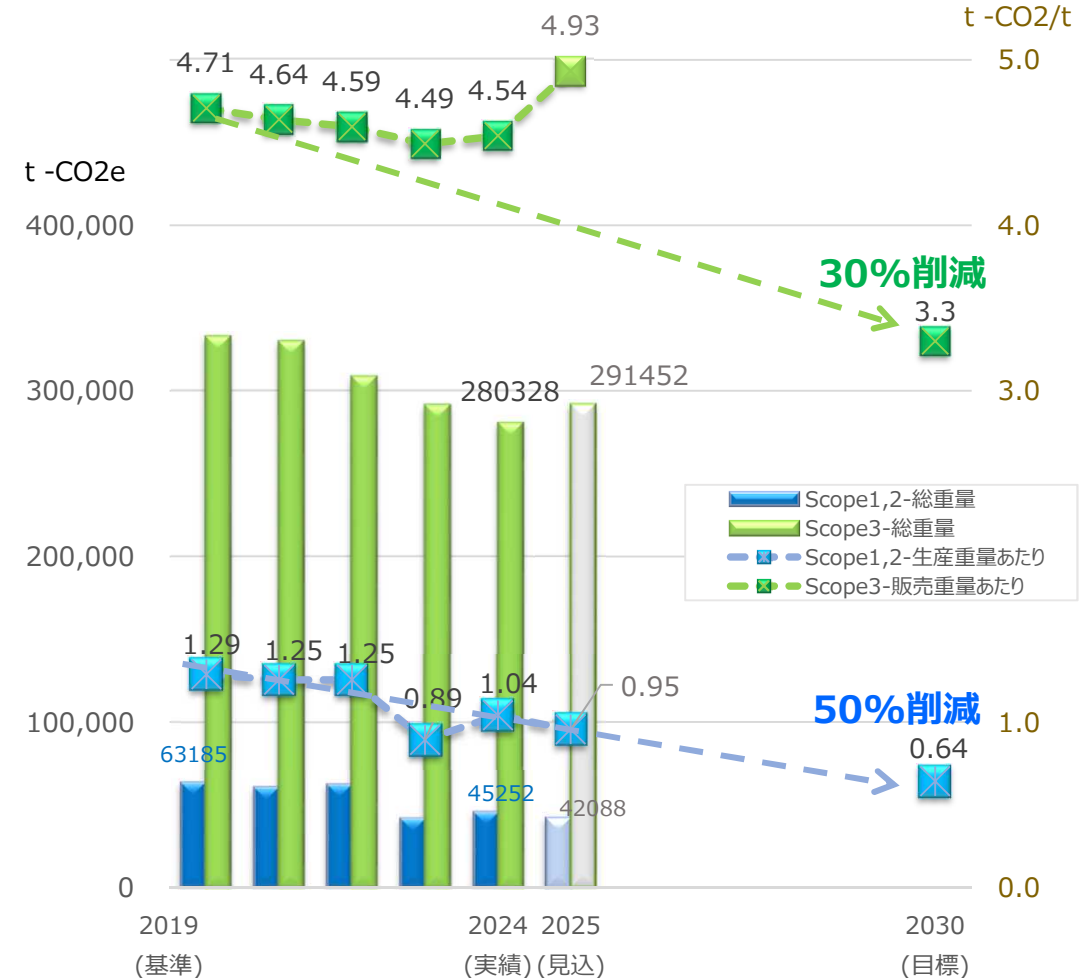
そのほか、生産設備でのLED化や事業所内に充電設備を設置し、社有車の電気自動車導入など、エネルギー効率の向上と電力起因の排出削減に資する施策を段階的に拡大していきます。

2030年度 目標値0.64[t-CO₂e]に向けて活動を推進してまいります。

Scope3について、2025年度は、PET製品の販売量の増加が見込まれ、PET化への進展とそれに伴う軽量化（樹脂使用量の減少）が要因と考えてます。

2025年度実績や販売状況により「サプライチェーンでのScope3削減目標」の見直しも視野に推進してまいります。

《資料1》



※1 Green House Gasの略でCO₂に代表される温室効果ガスのこと。

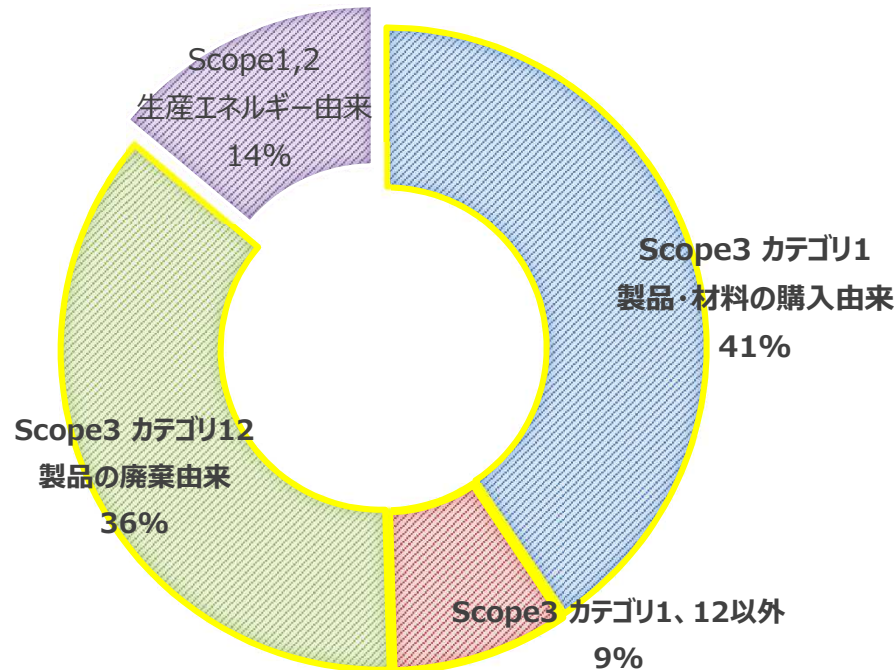
※2 https://www.tskg-hd.com/news/detail/20250423_newsrelease.html

Scope3については、サプライチェーンを通じた排出量が86%を占めます。そのうち41%が製品・材料の購入由来し、36%が使い終わった製品の廃棄処分に伴うものとなります。これらの削減にあたっては、製造時や廃棄処分時のGHG排出量が少ない材料に切り替え、廃棄/焼却処分される比率を低減していくことが重要になります。《資料2》

リサイクル材・バイオ材(植物由来)の調達、採用をお客様のご協力を賜りながら、リサイクル向上や軽量化による化石由来材の使用量削減など、当社が考えるプラスチック資源循環社会を目指してまいります。また、これらの原材料調達の貢献に有効な手段として、マスバランス方式で製造されたバイオマス原料や再生原料等の製品をサプライチェーン上で管理・担保するISCC PLUS認証制度があり、「摂津工場」で取得しました。ISCC PLUS要求事項に準拠できる管理体制は整えており、必要に応じて他工場への水平展開を進めてまいります。

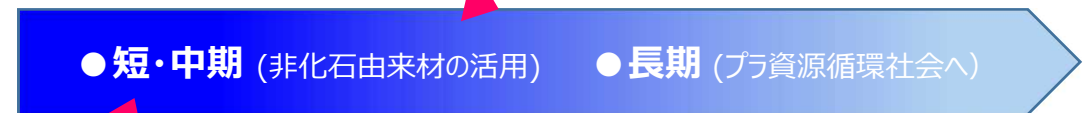
短・中期では、様々な角度から化石由来材の使用量削減を推進、ステークホルダーと協力しながらルート確立など、プラスチック資源循環社会に向けた取り組みに参画しながら、目標達成を目指していく考えです。《資料3》

《資料2》
事業活動に伴うGHG排出量の内訳（2024年実績、スコープ別）



《資料3》
プラスチック資源循環計画（ロードマップ）

- ✓ケミカルリサイクル・マテリアルリサイクルルート確立
- ✓ステークホルダーとの横断的協力
- ✓資源循環に向けた取り組みの参画
- ✓新規ビジネス検討
- ✓リサイクル材の衛生性確保
- ✓その他プラ PETの指定PET化
- ✓ボトルtoボトル



- 化石由来材の使用量削減
- ✓リサイクル材の採用
 - 安定供給/異物除去/使いこなし/洗浄
 - 選別/出口探索
 - ✓バイオ材(植物由来)の採用
 - ✓マスバランス(ISCC PLUS認証取得)
 - ✓軽量化

2. リサイクル材・バイオ材(植物由来)の使用状況

当社はリサイクル材・バイオ材(植物由来)の使用比率を2030年度に全体の30%以上に引き上げる目標を設定しております。

この比率の推移を《資料4》に示します。

(2019年比／2024年度までは実績、2025年度は見込、2030年は目標)

食品・非食品用途ともにリサイクル材・バイオ材(植物由来)を使用の製品化は、2024年度の5.4%と徐々に実績が増えており、2025年度は7.6%に伸長予定です。主にPETボトル製品のリサイクル材採用が進んでおります。

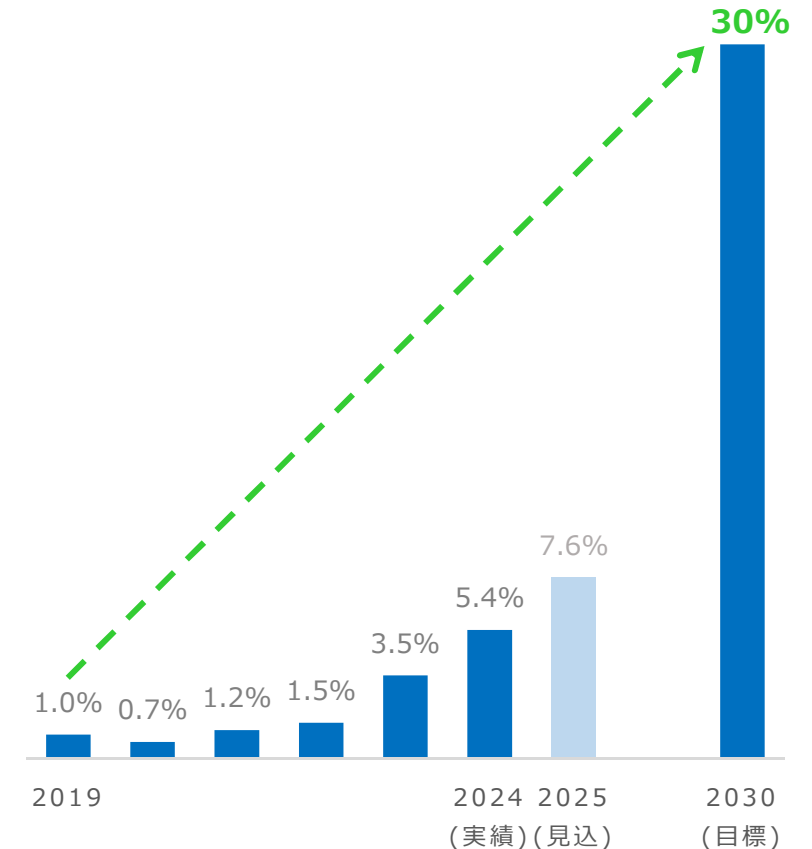
多くのお客様と製品化に向け、評価を進めておりますが、2030年の目標達成には多くの課題があります。

また、国内プラスチック資源循環の動きとして製品設計・製造段階から資源の有効利用を促す改正資源有効利用促進法(改正資源化法/2026年4月施行)により、今後、リサイクル材利用の義務化が促進されます。

今後も義務化の規制やその他法令の動向を注視し、プラスチック消費量に対する再生プラスチック利用量比率の情報開示に加え、リサイクル材利用計画立案と計画に沿ったリサイクル率向上に努めてまいります。

《資料4》

リサイクル材・バイオ材(植物由来)の使用比率



3. 当社製品をリサイクル可能にするための活動状況

日本国内のプラスチック容器は、飲料と一部調味料で構成されるPETボトルが使用後に回収され、再びPETボトルとして再生される循環ループを構築していますが、それ以外のプラスチック容器では、まだそこまでの状況に至っていません。当社で扱う製品は後者のものが多いため、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルに関する様々な自治体や企業との取り組みに積極的に参加し、資源循環への課題解決や学びからの啓発など貢献をする活動も推進しています。

プラスチック容器メーカーとして幅広い活動に関わることで、自分ごととして、資源循環の仕組み構築に貢献できるように進めてまいります。

【現在、参画中の取り組み】

- ◆マテリアルリサイクル ・CLOMA WG-2 「マヨネーズボトル水平リサイクル検討チーム」への参画
・CLOMA WG-6 (未来デザインの具現化) / Kawasaki Circular Design Park
- ◆ケミカルリサイクル ・プラリレープロジェクト https://www.tskg-hd.com/news/detail/20250214_newsrelease.html

4. 当社環境パフォーマンスの外部への開示状況

①EcoVadis、CDPを通じた情報開示について

- ◆EcoVadis 2025年評価で上位15%に相当する「シルバーメダル」を取得しました。
「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な調達」の4テーマにもとづき評価されています。
- ◆CDP CDP質問書に2019年から継続回答しており、現在、「気候変動分野：Bスコア」「水セキュリティ分野：Cスコア」です。
方針・ガバナンス・目標管理が評価される一方、水セキュリティ分野ではリスク評価と対策の実装を強化します。



これらの第三者評価を通じて開示の透明性を高めるとともに、フィードバックを真摯に受け止め、自社の活動改善に役立てています。

②CO2見える化サービスによる製品別GHG排出量情報の開示

当社の所属する東洋製罐グループでは、2021年末より、グループのお客様への製品別GHG排出量情報の開示サービス（「CO2見える化サービス」）をスタートさせております。現行製品の実績や仕様変更による削減効果などを分かり易く提示しております。

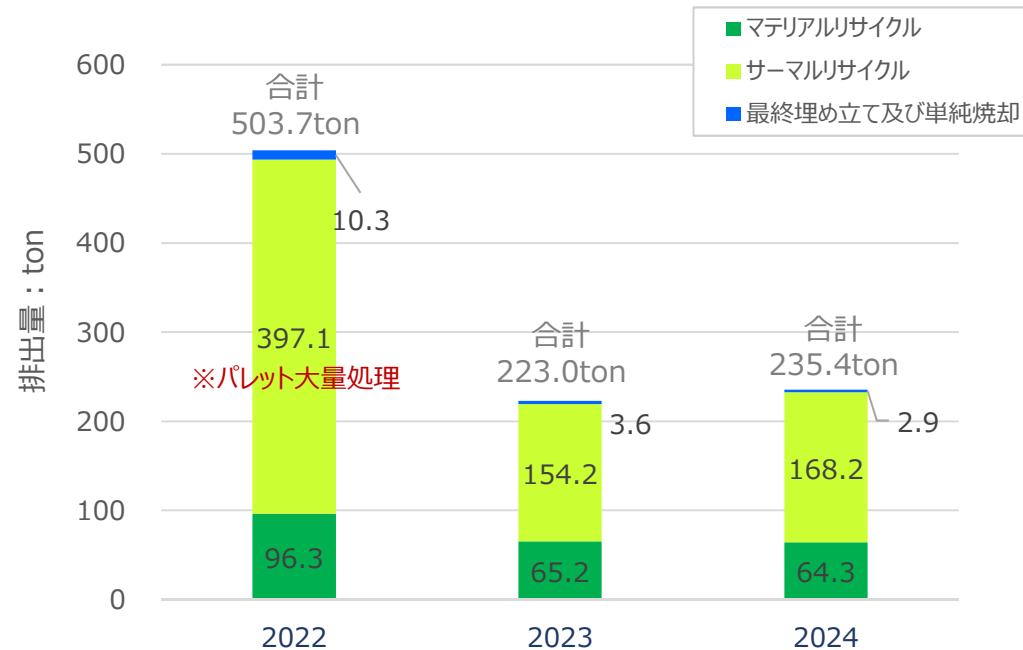
本サービスを通じて、お客様に数値の根拠に裏付けられたご提案をさせて頂きながら、取り組みを加速させてまいります。

本排出量は、エコリーフ環境ラベルプログラム（カーボンフットプリント）を参考に、東洋製罐グループ共通の算定ルールを定め、算定しております。

5. プラスチック排出に対する情報開示

2022年、大量なパレット処理を実施したことで「サーマルリサイクル」の排出量が増加しました。2023年と2024年はサーマルリサイクルが大幅に減少しほとんど変動はない状況でした。《資料5》

《資料5》プラスチック排出データ



【お問い合わせ先】

メビウスパッケージング株式会社 環境部

有吉健司 (✉ kenji_ariyoshi@mebius-pkg.co.jp)

植田香織 (✉ kaori_ueda@mebius-pkg.co.jp)